

牛久：学校周辺に見る自然

第2号 牛久自然観察の森

2020年4月2日発行

< 春の訪れ ~②すみれ >

こんにちは。暖かくなったり寒くなったりしながら、春はぐんぐんと進んでいます。今回は3月下旬、牛久自然観察の森で見つけたスマイレのなかまと、そこに来ていた虫たちの紹介です。



牛久自然観察の森で一番多く見られる、タチツボスマイレ。

ネイチャーセンターや観察舎の近くで、たくさんのスマイレが咲いていました。その大部分は、タチツボスマイレです。天気がいいと、ハナアブやハチ、チョウのなかまが蜜を吸っているのを見つけられるかもしれません。

花から花へ移りながら、蜜を吸ってまわる虫がいました。全身毛むくじゃらで、ホバリングしながら長い口先をのばして蜜を吸う姿は、まるでハチドリのようなようです。英語では「ビーフライ(ハチのようなハエのなかま)」とよばれているようで、ミツバチとまちがえる人もいます。でも、よく見ると羽は2枚。複眼が大きく触角は短いですね。そう、ハエに近いなかまなのです。日本での名前は、ビロードツリアブ。春にしか現れません。

成虫は蜜や花粉を食べますが、幼虫は、ヒメハナバチのなかまの幼虫やさなぎに寄生するそうです。

長い口先でタチツボスマイレの蜜を吸う、ビロードツリアブ。



同じくタチツボスミレの蜜を吸っていますが、こちらは本当のハチ。ずいぶんと触角の長いハチですね。これはオスでメスはもっと短いのですが、名前はニッポンヒゲナガハナバチ(日本髭長花蜂)といいます。生きものの名前はこのような、その特徴からつけられたものが結構あります。皆さんも、名前の分からない生きものがいたら、特徴から自分で名前をつけてしまいましょう。特徴が分かれば、あとで本当の名前が分かることもありますよ。

タチツボスミレの蜜を吸うニッポンヒゲナガハナバチ。



アオイスミレ(左上)と
ニオイタチツボスミレ(右上),
アメリカスミレサイシン(下)。

タチツボスミレと同じような場所に咲くのでまちがえることもありますが、よく見ると花の柄が短く毛があるなどの違いもあります。アオイスミレも咲いていました。

また数は多くありませんが、濃い紫のスミレも咲いていました。ニオイタチツボスミレです。タチツボスミレは明るくやや湿った落葉樹林や草原に生えますが、

ニオイタチツボスミレは明るくやや乾いた草原に見られます。最近、市内でもあちこちで見かけるようになったのが、アメリカスミレサイシン(パピリオナケア)です。北アメリカからの帰化植物。観察舎の近くで咲いていました。

【理科支援員：宮内】